

特集 看護学

研究ノート

看護基礎教育におけるケアリングの意義 — 文献レビューからの考察 —

内 潟 恵 子*

要旨：看護の本質であるケアリングについて看護基礎教育において授業・演習・実習に系統的取り入れていく意義を明確するために文献レビューを実施した。その結果①「ケアリングの概念に関して」②「ケアリングをカリキュラムの視点から考察」③「ケアリングの具体的な方法論に関して」④「ケアリング行動や認識についての分析に関して」の4つのカテゴリーに分類できた。文献レビューから導きだされたのはケアリングを看護基礎教育に導入するにはケアリングの概念を明確にするだけでは不十分である。学生がプロフェッショナルになるという自覚を持つ上で「ケアリング」は必要不可欠な考えであることが示唆された。またケアリングを学生に教える具体的な方法としては、「対話」を重視した多くの事例を中心とした授業・演習を行うことによって理解が深まると考えられる。「ケアリング」を看護基礎教育にプログラムとして取り入れることは意義あるとの結論を得た。

キーワード：ケアリング, ジーン・ワトソン, カリタス, トランスパーソナル

Significance of Caring in Basic Nursing Education: Consideration from Literature Reviews

Keiko UCHIKATA*

Abstract: We conducted a literature review to examine the significance of systematically incorporating caring as the essence of nursing practice into lessons, exercises, and clinical practice in basic nursing education. The results were classified into four categories: 1) 'Concerning the concept of caring', 2) 'Considering caring from the viewpoint of a curriculum', 3) 'Concerning specific methodologies of caring', and 4) 'Concerning analysis of caring behaviours and awareness'. The reason for the literature review is that it is insufficient to merely clarify the concept of care in order to introduce caring strategies into basic nursing education. The results suggest that 'caring' is an indispensable concept for students to internalize in order to become professionals. Moreover, students' understanding may be deepened by conducting lessons and exercises focusing on many case studies that emphasize 'dialogue as a concrete method of teaching caring. It was concluded that it is meaningful to incorporate 'caring' as a program in basic nursing education.

Keywords: Nursing, Education, Caring, Jean Watson, Caritas, Trans personal

*東京情報大学 看護学部
Faculty of Nursing, Tokyo University of Information Sciences

2017年9月19日受付
2018年1月25日受理

1. はじめに

高度経済成長期から現在まで医療・看護分野は高度な知識と技術を身に着けた看護師養成に向けて、看護基礎教育機関では様々な試みがなされてきた。特に看護の科学的思考が重要視され専門看護師・認定看護師など、より専門性を高める研修システムが定着してきた。その一方で「人間が何かを大切に思うといった感情体験」「人と人との関わりの大切さ」に基づくケアリングは、不確実な感情論として科学的思考からみて質の低いものとして排除される傾向にあった」（泉澤 2009）[1]と言われる。川島は「医療の電子化、機械化と引き換えに、医師はぬくもりのある手や…略…失っているように思えます」（川島 2013：p205）[2]。また「医師とともに医療現場で働く看護師もまた本来は病む人の『生きていく』という営みを支える使命を持ち、その技を有す存在であるにもかかわらず。…略…いわゆる『看護ならではのケア』を自ら手放しているように思えます」（川島 2013：p205）[2]と述べている。レイニンガーは「一般に第二次世界大戦後、フェミニスト運動前の時代には、看護婦は医療器械の操作や複雑な治療処置や手順をいかに効果的かつ能率的に行うかを学ぶために多くの時間を教育と研究に注入した」（レイニンガー 1971：p10）[3]、「多くのハイテク医療センターではヒューマンケアの文化的価値やアートというものはほとんど消えてしまったといくらいだった」（レイニンガー 1971：p11）[3]と同様なことを述べている。筆者の体験からも実習病院で学生の「この看護診断でいいでしょうか？」といった疑問に「NANDA-I 看護診断一定義と分類」を学生とともに調べその中の診断指標から患者の状態が近いものを選ぶように助言してきたが、何かしっくりこない場合があった。それが川島のいう「生きていく」営みを支える看護ではなかったのだと考える。一番は患者がどうなりたいたいと考えているのかをよく理解しなければならない。臨床の場や看護教育の場でも「患者に寄り添う看護」と言いながら人間を枠に当てはめる、あるいは細分化して分析するという方法に何か違うという違和感やジレンマを抱えながら実習指導をしていた。

看護過程の授業でも看護診断についてかなりの時間を費やしているが、看護の本質である「ケアリン

グ」については教員の個人的な力量に任され、シラバスなどにしっかりと記述されていない状況だった。西田は看護師養成カリキュラムの系譜と問題から「繰り返され積み重ねられた看護師カリキュラムの部分的改正が、看護の本質を見えにくくしているのではないかと考える」（西田 2016）[4]、「〈ケアリング〉が看護の本質であるならば、これらの法的文書の中に〈ケアリング〉の教育について何らかの言及がなければならないが、〈ケアリング〉の文言は一切みられない」（西田 2016）[4]と述べているように「ケアリング」について述べてあるテキストはあるが、実際には教授する教員個人の裁量にゆだねられているのが現状である。

一方でケアリングに対する批判的意見として「ケースは、看護におけるケアリングの感情的側面を批判している。…略…ケアリングは看護師自身の解釈の中にはまり込みただ単に自分の思いを巡らせているという個人的な出来事に終始し、物事の判断基準を失ってしまうだろう」（泉澤 2009）[1]とある。しかし本当にケアリングの定義は曖昧なのか、看護基礎教育の中に系統的に取り入れていくにはどんな課題があるのかを明確にする必要があると考えた。授業・演習、実習の中に「ケアリング」の考え方を基盤として、個人の考え方に任せるのではなく、客観性をもった科学として教員が同じ視点で教授していく具体的な方法を探る必要性があると考えた。

臨床の場では個々の事例、例えばがん患者の看護、終末期看護など事例を通してのケアリングについての文献が見受けられた。看護基礎教育においては実習で学生と教員の関係や指導者との関係の中でケアリングについて述べられているものがあるが、ケアリングの概念を明確にしたうえで、看護基礎教育にケアリングを取り入れている論文そのものが非常に少ないことがわかってきた。そこで看護基礎教育においてケアリングの視点を取り入れる意義を明確にするために文献レビューを行った。

2. 目的

看護基礎教育においてケアリングの視点を取り入れる意義を明確し、授業・演習・実習の導入方法を探る。

3. 方法

「看護教育」「ケアリング」「概念」の3つのキーワー

ドがすべて入ったものを医学中央雑誌、MEDLINE/PubMedで原著論文のレビューを行う。

「看護教育」「ケアリング」のキーワードでは、多くの事例はあるが、研究者がどのようにケアリングをとらえているのかが曖昧であるため、検索のキーワードとして「概念」について記述した論文を検索した。

【言葉の定義】

- ・ユニタリ (unitary) : 一つの単位としての人間存在 (M. Rogers 看護論)
- ・トランスパーソナル (Trans Personal) : 間主観的・超越的・人間同士の関係性であり、その中で、看護師個人は患者に影響を与えると同時に、患者から影響される。両者はともにその瞬間にしっかりと存在し、お互いが結びついていることを感じる p103[5]
- ・カリタス (Caritas) : ラテン語で「大切にすること。感謝する。愛情のある関心、もしくは特別な関心を向ける p105[5]

4. ケアリングについての要約

1) ミルトン・メイヤロフ (Milton Mayeroff 1925-1979以下メイヤロフ) は哲学者でありケアリングについて述べている先駆者である。著書「ケアリングの本質 (On Caring) 一生きることの意味」(メイヤロフ 1987)[6]では特に看護や教育に言及したケアリングについて述べられているわけではない。しかし後の看護学においてケアリング概念の発展に多大なる影響を与えたメイヤロフのケアリングの考え方を避けて通るわけにはいかない。「ワトソン看護論」(ワトソン 1999)[5]もメイヤロフの影響を受けている。メイヤロフは他の人をケアするということは「自分以外の人格をケアするには、私はその人をその人の世界を、まるで自分がその人になったように理解できなければならない」(メイヤロフ 1987 : p93)[6]、「その人の目で見るとることができなければならない」(メイヤロフ 1987 : p93)[6]と述べている。またメイヤロフの考え方のキー概念として「メイヤロフの著書の中には〈場の中にいる [being in-place]〉という語が頻繁に使われている。…略…メイヤロフのケアリングの本質論につながるキー概念である」(西田 2015)[7]、著書の中では「場というもの

でもないのである」(メイヤロフ 1987 : p117)[6]、「『《場の中にいる》ということは、空間的であると同時に時間的でもある。これは現在が時間的であると同様に空間的なことでもあるのと似ている』」(メイヤロフ 1987 : p117)[6]、「ケア」と「場」について具体的には「『場の中にいる』ということは私と補充関係にある対象への私のケアによって中心化され、全人格的に統合された生を生きること」(メイヤロフ 1987 : p126)[6]、「人は自分の場を発見することによって自分自身を発見する。その人のケアを必要とし、またその人がケアする必要があるような補充関係にある対象を発見することによって、その人は自分の場というものを発見する。ケアすること、ケアされることを通じて人は自分の存在全体 (自然) の一部であると感じるのである」(メイヤロフ 1987 : p180)[6]と述べている。「『ケアすることは生きることである』『人間はケアすることで生きている』というのがメイヤロフの人間観である」(西田 2015)[7]。

メイヤロフはケアリングの定義を明確にしているわけではないが、「ケアによって規定される生の重要な特徴」(メイヤロフ 1987)[6]を6つ示している。第1は「基本的な確実性」(メイヤロフ 1987 : p140)[6]、「不動であり、一般的にその人の生き方と結びついている“場の中にいる”ということの中には、ある安定性がある」(メイヤロフ 1987 : p140)[6]、「私と補充関係にある対象によって必要とされている、という事実からくる帰属感を深く身を感じると、その経験は私を根底から支えるのである。これこそ基本的確実性の一要素なのである」(メイヤロフ 1987 : p143-144)[6]。第2は「生きるこの過程はそれだけで十分なものである」(メイヤロフ 1987 : p149)[6]、「私たちが自分の生の過程を十分なものであると感じているときは、はかり知れない深奥からの反応が自分たちの経験の特徴づけてくれるのである」(メイヤロフ 1987 : p153)[6]。第3は「了解性と無限性」(メイヤロフ 1987 : p154)[6]、「了解性とは、私の生活に関連しているものは何か、私が何のために生きているのか、いったい私は何者なのか、何をしようとしているのか、これらを抽象的なかたちではなく、毎日の実生活の中で理解していくことなのである」(メイヤロフ 1987 : p154)[6]。第4は「自律性」(Autonomy) ということ、私が自己の生の意味を

生きることである」(メイヤロフ 1987: p161)[6]、「そもそも私は、最初から自律的であるわけではない。自律とは、成熟とか得難い友情の深まりと同じく、ひとつの達成なのである」(メイヤロフ 1987: p161)[6]。第5は、「信」、「信は (Faith) は狭義においても広義においても“場の中にいる”ということの中に見出される」(メイヤロフ 1987: p172)[6]、「こうした信は、人生と意味深いかかわりを持つことによって生じてくる」(メイヤロフ 1987: p176)[6]。第6は「感謝」、「感謝 (Gratitude) は“場の中にいる”ということから生じる自然な発露である。…略…さらに一般的に言えば、人生そのものに感謝している」(メイヤロフ 1987: p176)[6]。これら6つの特徴から言えることはケアしているということは生きることそのものだけということである。「場の中にいる」という言葉を多く用いているのも、生き方そのものであることを示している。「私が自分以外の他者の成長と他者の幸福を、私自身のそれと同一化するからこそ、自己の拡張というものがある」(メイヤロフ 1987: p166)[6]と述べているように、ケアを通して自分の生きている意味、何をしようとしているのかに気づき対象の成長を通して自らも成長していくことが「場の中にいる」ことに通ずる。

メイヤロフの著書は特に看護に限定した内容ではないが、看護の本質が「ケアリング」にあるとするならば、看護師は相手の成長を助けることによって看護師自身の生きる意味を見つけていくことであると考えられる。「ケアする対象を単に援助が必要な人とみなすのではなく、“場の中にいる”ことに気づかせてくれた存在としてみることであれば自然と『ケアをしたい』と思えていくのではないか」(西田 2015)[7]。

ここから看護師もケアリングを通して一人の人間として成長していく存在であることが再認識できた。

2) ジーン・ワトソン (Jean Watson 1940～以下ワトソン) の著書「ワトソン看護論—ヒューマンケアリングの科学」において看護学について最初に述べているのは、「看護学が現代という時代に挑むとするならば、第一世代の科学的手続き・事実そのもの・厳格な定義・根拠・合理主義・操作主義・変数の操作・身体を機械に例える、といった一連の古い先入観を打破しなければならない」(ワトソン 1999: p 4)[5]ということである。つまり身体と心理を分けて考えたり、臓器や組織として考えるのではなく、分けられないユニタリな世界観との関連で看護

学を考える必要がある。また看護学には独自の見方・視点が必要であると繰り返し述べている。「看護学と科学の他の分野との明らかな違いは、文脈・プロセス・関連する概念—看護・ケアリング・人間・生命・人間関係・健康・ヒーリング・死ぬこと—が難解ということである」(ワトソン 1999: p 4)[5](表1参照)。「看護学は人間と科学についての価値観・前提・倫理・哲学的志向・目標を打ち立てることでヒューマンケアリングの科学に貢献することができる」(ワトソン 1999: p88)[5]とも述べている。「看護に関する独自の理論は形而上学的である」(ワトソン 1999: p88)[5]。さらにワトソンはまた次のように述べている。「ケアリングの概念は単に看護行動に関するカテゴリーや分類によって明らかにされるのではなく、理念や、看護とは何をすべきか、どのようであるべきかという方向性によって明らかにされる」(ワトソン 1999: p61)[5]。さらに一回一回のヒューマンケアリングの瞬間はその時間と空間にだけ存在するのであり、二度と同じやり方で繰り返すことはできない。ある瞬間に起きたことは、看護師と患者双方に影響を及ぼし、お互いの間に次の瞬間、何が起きるかを伝え合うことになる (ワトソン 1999: p61)[5]。

ワトソンの看護論、ケアリングについて理解するうえで重要なキーワードとしてトランスパーソナルがある。「看護師と患者という二人の人間の間で取り交わされる行動であり、対応である。それらは美学的で創造的であって個人的なやり取りとしてお互いに生を与え合い、生を受け取りあう」(ワトソン 1999: p103)[5]。つまりトランスパーソナルなケアとは、ケアするものとケアされる対象が双方の影響を受け、双方が目的に向かって成長していくプロセスを実践していくことである。看護師が自分の持ち合わせているすべてのもの(五感)を持って対象となる人と向き合ったときしっかりと結びつきを感じる瞬間がある。それがトランスパーソナルだと考える。「トランスパーソナルケアリングのようなプロセスは、次に自己治癒力のプロセスを生み出し、推し進めていく」(ワトソン 1999: p104)[5]。ワトソンは、ケアリング理論の核となる因子について、ケアリングと愛の両方の意味を含んだことばで「カリタス (caritas)」という表現を使っている。そしてケア因子とカリタス・プロセスの10項目について以下

のようにまとめている (ワトソン 1999 : p64) [5]。

- ① 価値観の人間の—利他的システム
 - ② 信仰—希望をもてるようにする
 - ③ 自分自身と他者への感受性を磨く
 - ④ 助けること—信頼、ヒューマンケアの関係
 - ⑤ プラスの感情もマイナスの感情も表出する
 - ⑥ 創造的な問題解決のケアリングプロセス
 - ⑦ トランスパーソナルな教育—学習
 - ⑧ 支援的・保護的、および／あるいは修正的な精神的・身体的・社会的・スピリチュアルな環境
 - ⑨ ニーズの支援
 - ⑩ 実存的な—現象的—スピリチュアルな力
- これらは看護教育に取り入れていくときの基礎的な考え方となる。

またワトソンは今までの自然科学とヒューマンケアリングの違いについて表1のように対比させている (ワトソン 1999 : p19) [5]。

5. 文献レビューの結果

「ケアリング [caring]」「概念 [concept]」「看護教育 [nursing education]」: のキーワードをすべて満たす文献を1989年以降医学中央雑誌、MEDLINE/ PubMedで検索した結果、40件がヒットした。そのうち国内論文は原著論文 (一部資料) 9件、海外文献は全文が手に入るもの12件、合計21件をレビュー対象とした。

文献レビューの書かれている考察・結果で使われているキーワードから以下の4つのカテゴリーに分類できた。(重複あり)

① 「ケアリングの概念に関して」 文献ID 1・2・3・5・10・14・21

これらの文献から1989年にはすでに医学的モデルの影響をなお受けていることに危惧を感じていることがわかる。ID 1 では学生が2年半にわたっての患者との関わりでパラダイムが変化していることの調

表1 伝統的科学与ヒューマンケアリングの科学との視座の相違点

伝統的、医学的自然科学の文脈	オルタナティブな看護学 ヒューマンケアリングの科学
規範的	個性的
還元的	交流的／トランスパーソナル／超越的
機械的	形而上学的／魂に満たされた 人間の—文脈的／深化する
方法中心的	現象的中心
価値中立的	価値付加的；同意され、明確化された価値
病理学—生理学上の疾病中心	個人の主観的内的全体性；意味 人間の内的主観的反応 人間の状態がもつ意味
“科学”の倫理	属していること／一体性／ つながっていることのユニタリな倫理
より量的	より質的／すべての形態の知識を認める組み合わせ； 探求の多様な形態
絶対的、所与の条件、法則	相対的、開かれた流動性；創造的現出
客体としての人間	主体としての人間
客観的経験	主観的—間主観的経験
事実	経験、意味

出典：ジーン・ワトソン／訳：稲岡文昭・稲岡光子・戸村道子：ワトソン看護論ヒューマンケアリングの科学 第2版, p19, 医学書院, (2014) [5]

表2 文献レビューマトリックス

ID	著者・表題、学術雑誌	出版年	目的・研究デザイン	従属変数	考察・結論	筆者のコメント
1	Eriksson K Carig paradigms.A study of the origins and the development of caring paradigms among nursing students. : Scandinavian Journal of Caring Sciences Vol. 3(4)pp169-176.	1989	看護学生の訓練期間中、パラダイムがどのように形成され、発達、統合されるかを調査する。大学院生にアンケート調査を実施。	ケアのパラダイム	ケアのパラダイムは医学モデルの影響を受けている。ケアリングのパラダイムを具体的に变えていく努力が必要。	ワトソンが述べている前から、医学的モデルからの脱却を意識した研究である。
2	Bauer JA Caring as the central focus in nursing curriculum development.:NLN Publ,41-2303,pp255-266.	1990	カリキュラムに関する文献研究	焦点としてのケア	哲学的基盤を構築することが大切。教員はモデリングとしての役割がある。	学生にケアリングを教える際には教員のケアリングに対する考え、哲学的な考えが影響する。
3	布佐真理子、羽山由美子、操華子：看護教育におけるケアリング概念についての検討—メイヤロフの「ケアの本質」をてがかりに—：聖路加看護大学紀要、pp15-21, No.23.1997.3	1997	なぜ看護教育にケアリング概念が重要視され始めたのか、メイヤロフの「ケアの本質」から概念の持つ意味を考察	ケアリング概念	教員は学生とともに学ぶ体験を通し「意味と重要性の共同探求者」となりうる。看護教育におけるケアリングの適用を考える基本である。	ケアリングのプロセスが教員と学生がともに成長する関係であることが示唆された。
4	Patricia R. Cook, Janice A. Cullen: Caring as an Imperative for Nursing Education:Nus Educ Perspect July/August 2003. Vol.24-Issue 4 pp192-197.	2003	いくつかのケアリングモデルからカリキュラム、教育プロセス開発でケアの価値の内在化を図ることを検討	ケアリング	ケアの価値に着目したカリキュラムを開発することで看護の卒業生が普遍的な看護の価値を内在化できる	教員がモデルになることの重要性と、カリキュラムに関して記述されている。
5	Khademian Z, Vizeshfar F Nuring students perceptions of the importance of caring behaviors: J Adv Nurs. 2008 Feb; 61(4) pp456-462.doi:10.1111/j.1365-2648.2007.04509.x.	2008	看護学生に対する認識調査	看護学生の認識	カリキュラムにおける評価研究、ケアの概念に関する学習を改善するためのさらなる縦断的研究が必要	カリキュラムに関して改革が必要だと記述されている。

ID	著者・表題、学術雑誌	出版年	目的・研究デザイン	従属変数	考察・結論	筆者のコメント
6	川村友紀：看護教育におけるケアリングに関する研究の概観—近年の国内文献の動向と内容の検討：インターナショナルNursing Care Reseach 1347-1341 99巻3号、pp43-50,2010.10-	2010	看護教育においてケアリングがどの位置で重要とされているのか、また看護教育における今後の課題をあきらかにする。文献研究	ケアリング文献の動向と内容	臨地実習のみならず、教員が学生と意図的な対話をするのが重要。学生に対して普段からの対人関係の一つにケアマインドが育成できる行動が教員に必要である。	ケアリングマインドを育てるために教員の役割を重視している。
7	安酸史子ケアリングをいかにして教育するか：看護研究 Vol.44 (2) pp172-180.	2011	ケアリングの教育方法を明確にする	ケアリング	対話・練習・奨励・モデリングが重要。経験型実習教育が有効(事例で考える)	行動主義モデルからケアリングモデルへパラダイムの変換が必要である。
8	佐藤 静： 学校カリキュラムにおけるケアの実践知の観点：東京大学大学院教育学研究科 基礎教育学研究室 研究室紀要 第39号9月	2013	学校カリキュラムにケアの実践知の観点を導入するために実践知の特徴を描き出すことが目的。文献レビュー	ケアの実践知	道徳的行為が大切、相互身体的な了解に身を置くことが重要である。 「ケアの実践知」の学びに向けてカリキュラムが構想されるべきである。	カリキュラムの重要性に言及している
9	但馬まり子・赤井由紀子： 臨地実習指導に携わる看護師が看護学生に伝えたいケアリング行動：日本看護学会論文集 看護管理 第44回	2014	臨地で関わる看護師が看護学生に伝えたいケアを分析し、実習指導に取り入れていく。質的記述式調査	看護学生に伝えたいケア	対応の仕方など8つのカテゴリーになった。ケアリングを指導するための時間確保と指導者の講習の参加が大切	具体的行動からケアリングを考察している
10	Dobrowolska B： Care concept in medical and nursing students description-philosophical approach and implications for medical education:Annals Of Agricultural And Environmental Medicine :AAEM.Vol.21(4) pp854-860.	2014	看護学生と医学生のケアに対する理解度と定義の認識調査	ケアコンセプト	看護学生と医学生は最初は違う概念を持っている、哲学的アプローチと専門教育によって両者はケアリングの概念を持つようになる。	教育に哲学的な視点が重要である。

ID	著者・表題、学術雑誌	出版年	目的・研究デザイン	従属変数	考察・結論	筆者のコメント
11	迫田綾子 循環型教育とヒューマンケアリングへの道：看護教育、Vol.55(2) pp162-169:	2014	教育方法にかかわった者と教育を受けた学生の声から循環型教育の効果を考える。実際の授業演習の分析	循環型教育	模擬患者の事例を使った学習方法、計画・巻き込む、実施・評価・研究する。循環型教育にかかわる人からの体験を教育に還元することが看護教育の発展につながる	ケアリング教育をシステムとして考えている。
12	Spadoni M,Doane GH,Svean P,Poole K : First-year nursing student-developing relational caring practice through inquiry: The Journal OF Nursing Education Vol. 54(5) ,pp270-275.	2015	1年目の看護学生に相互関係の質問を(学習理論に基づいた)することをカリキュラムのプロジェクトに取り入れた	相互作用	初学年に行動変容を促した結果、自分や他との相互作用を探求し、看護師となっていく。	なぜ1年生に対象を絞ったのか述べられていないが、先入観がない最初からプログラム化している。
13	Dobrowolska B,Palese A: The caring concept,its behaviours and obstacles: perceptions from a qualitative study of undergraduate nursing students Nursing Inquiry, 23, pp305-314,(2016) doi: 10.1111/nin.12143	2016	看護学生のケアリングに関する5つの項目を実習前後で記述したものを調査し、分析した。	行動と障害	この研究から浮上してきた障害のうち医療システム上の問題は学部で考慮されるべきである。ケアリングの概念と行動レベルを表現することがケアリングの発展に寄与する。	臨床でのケアリングを行うにあたっての障害に目を向けている。
14	Maryam Salehian, Abbas Heydari, Nahid Aghebati, Hossein Karimi Moonaghi ,Seyed Reza Mazloom : Principle-based concept Analysis: Caring in nursing education: Electronic Physician 2016. Mar: 8(3)2160-7. doi:10.19082/2160.	2016	2005年から2014年の文献から4つの原則を用いてデータを分析 MAXQDA10ソフトウェア使用	概念分析	学生と教師の相互作用では両者ともに成長する。看護教育におけるケア概念の理解はよい学習環境をつくり、カリキュラム開発につながる	カリキュラム開発に言及している。

ID	著者・表題、学術雑誌	出版年	目的・研究デザイン	従属変数	考察・結論	筆者のコメント
15	西田絵美： 看護師育成としての〈ケアリング〉 教育のあるべき姿：佛教大学教育 学部学会紀要 第15号 pp115-125.	2016	看護師養成カリキュ ラム内にケアリング教 育が抜け落ちている 原因を考察し、どの ような視点で盛り込 むべきかを提言する。 看護教育制度から分 析する。	ケアリング の教育	バラバラに学んで きた看護学をつな がった形に変える ことが重要、既存 の知識・技術とケ アリングをミック スする方法の検討 が必要。統合看護 学実習のあり方 を見直すことで可 能になる。	カリキュラムに 言及しているが、 実習が中心であ る。日頃の授業・ 演習には踏み込 んでいない。
16	安酸史子： ケアリングを取り入れた看護教 育：日本保健医療行動科学学会雑 誌 31(2) pp10-13.	2016	教育の方法としてケ アリングを取り入れ る必要がある。文献 からの考察と授業過 程の教材化	ケアリング	学生との対話方法 として①オープン リード②リフレク ション③ “I” メッセージ。学生 は教員からケアリ ングを受けること でケアリングを実 践することができる ようになる	ワトソン看護論 を重視している。
17	Leodoro J,Labrague, Denise M.McEnroePetitte, Ioanna V. Papatthaniou, Olaide B.Edet, Judie Arulappan, Konstantinos Tsaras, Dennis C.Frona : Nursing students' perceptions of their instructors' caring behaviors: A four-country study Background: Nurse Education Today June 2016 Vol. 41, pp44-49	2016	インド、ギリシア、ナ イジェリア、フィリ ピンの4か国での学 生の認識調査、(201 3年～2014年450名) ANOVAを用いて統 計的に分析	ケア行動の 認識	最も高いサブス ケールは「ケアリ ングを通しての自 信」最も低いサ ブスケールは「コ ントロール対柔軟 性」であった。	4か国で調査し たのは意義深い。 国が違っても看 護教員のあるべ き姿に共通点 がある。
18	佐藤聖一： 看護学テキストにおける「ケアリ ング」の教育内容の分析：看護教 育研究学会誌第8巻(1).2016.	2016	看護基礎教育で教授 されるケアリングの 教育内容の現状を明 らかにする。テキス トマイニングで分析	ケアリング の教育内容	教員は実践場面に おけるケアリング を学生がイメージ できるように授業 や演習を迫する 必要がある。ケア リング教育の必要 性や看護倫理の内 容が少なかった。	テキストからカテ ゴリーとして分類 しているが、どう いう要素・項目が 必要なのかにつ いては言及してい ない。

ID	著者・表題、学術雑誌	出版年	目的・研究デザイン	従属変数	考察・結論	筆者のコメント
19	Richard G Kyle, Wayne Medford, Julie Blundell, Elains Webster, Sarah-Anne Munoz, Leah Macaden Leaning and unlearning dignity in case:Experiential and experimental educational approaches:Nursing education in practice.2017 May 04;25;50-56.pli:S1471-5953(17)30290-1	2017	スコットランドの看護学生に「尊厳」についてどのようなアプローチが必要かアンケート調査を行った。オンラインアンケートn=111,フォーカスアンケートn=35	尊厳の学習と未学習	看護学生は教育によって尊厳の概念とケアの概念の実践を学んでいる。ロールプレイング、シミュレーションなど。学習を忘れないように教育プログラムにさらに統合する必要がある。	尊厳について的重要性を述べている。倫理的なことも教授する必要がある。
20	Majda Panjnkar, Gregor Stiglic, Dominika Vrbnjak The concept of Watsons carative factors in nursing and their (dis)hamony with patient satisfaction:Peer J.2017; 5 e2940.doi:10.7717/peerj.2940	2017	看護チーム1098名と患者1123名のアンケート調査。データは記述統計及び推論統計で分析した。	ケア因子の概念と患者満足度	ケア因子の感受性は看護教育のレベルに関連していた。患者の満足度の差は、看護師が受けた教育背景に起因する。	どのような教育を受けてきたかが、ケアリングに影響を及ぼす
21	Maryam Salehian, Abbas Heydari, Hossein Karimi Moonaghi, Nahid Aghehati Developing the cincept of caring in nursing education:Electronic Physician.2017 May;9(5); 4425-4433.doi:10.19082/4425.	2017	上級看護学生に「文化的・宗教的背景」などいくつかの質問について半構造化インタビューをした。それらをカテゴリーに分類し分析した。	ケアリング概念	学生のケアリング概念は教員の文化的及び宗教的背景が相互作用に影響する。	教員の資質にも言及している

査である。プロフェッショナルとしてのパラダイムは人生（生活）のパラダイムと関係しているということである。ID 3では看護教育における教員の役割「評価する者」から「対話する者」と立場を変えていく必要性を述べている。ID14は文献研究で看護教育は人間の価値観に基づいて、学生と教員の相互作用が大切であり、相互作用の結果は両方が成長していくという結果を報告している。ID 2・5・10・21ではケアリングの概念を教える際、文化的な要素、哲学的、宗教的な要素や教員の資質も重要な要素であることがわかる。このことから「概念」は、人の人生観や生活観などが大きく影響していると考えられる。

② 「ケアリングをカリキュラムの視点から」文献 ID 2・4・5・8・12・14・15・18・20

ID 2・4では教員がモデリングになることも必要

だが、看護学生がケアの価値を内在化するためには、プロジェクトとして、あるいはカリキュラムの中に組み込んで系統的に教授することが必要であることが述べられている。ID 5・8ではカリキュラムには「文化的能力」を改善していく必要性や「ケアの実践知」の学びに向けての改善が必要と述べられている。ID12では1年目の看護学に学習理論を使用していくことによって自分や他との相互作用を探求し始めるとの結果が報告されている。ID14ではカリキュラム開発にはケアの概念の理解が欠かせないことを示唆している。ID15では、看護師養成カリキュラムにおいてケアリング教育が抜け落ちていることを指摘している。ID18は15のテキストのケアリングに関する記述をテキストマイニングで分析している。それについては後述する。ID20ではケアリングの認識

に影響を与えるのは教育的要因だけではなく、制度的要因も影響があることを示している。

③ 「ケアリングの具体的な方法論に関して」文献ID 6・7・9・11・16・19

ID 6は、臨地実習におけるケアリングに取り組んだ論文から、教育方法として「対話」が重要であることを述べている。ID 7・9・19具体的な方法として「対話」「教員のモデリング」「ロールプレイング」「事例（模擬患者）を使用してケアリング教育をしている。ID11は大学内での学習（教員）と臨地における学習（臨床看護師）を循環型教育システムとして定着させている。ID16は、ワトソン看護論を基盤にしてケアリング実践に取り組んでいる。教員と学生との関わりそのものがケアリングとなることも今までの先行研究と同じ結果である。どれも授業・演習の中に具体的な方法論として工夫して取り入れている。

④ 「ケアリング行動や認識からに関して」文献ID 1・2・6・10・13・17・20・21

ID 1では、看護学の認識において文化的な要素も重要であることを述べている。ID 2・6・10ではケアリングの概念を持つには、哲学的基盤（尊厳についての教授することなど）がプログラムに不可欠であり、教員の資質が関係すると強調している。ID13は、看護学生が実習前後にどのような認識の変化があったのかを「caringをするために障害」にも視点をあてて調査している。実際に現場で起きる様々な事柄に学生自身が感じる不安を記述させている。ID17は学生の認識を4か国で実施している。国が違って看護教員の役割には共通点があるという研究であり、ケアリング行動には普遍性があると述べている。ID20はケア因子（ワトソン看護の因子）をもとに患者の満足度に視点をあてた調査である。ケアリングは患者自身が受けたという満足があってこそ成り立つものである。看護師と看護助手のケアリングの認識には看護教育レベルとの関連があると結論づけられている。ID21でも学生のケアリング行動は教員の文化や宗教的背景が影響すると言及している。

6. 考 察

「ケアリング」の概念は米国での看護教育カリキュラムの変革から始まったといえる。「1989年頃より、Beis. E. O.を始めとして、行動主義的モデルに基づい

た看護教育プログラムは訓練を中心とした教育であり、専門教育プログラムではないという批判があった」[ID 3]（布佐ら1997）[8]。「多くの看護教育者達は看護教育カリキュラムの変革の動きの中核となる価値あるいは概念に、ケアリングを位置づけた」[ID 3]（布佐ら1997）[8]。「1990年にアメリカではケアリングをカリキュラムに核とするよう看護教育上の変革を求める決議がなされ、ケアリングを教育の場で育むことは可能である」（中柳2000）[9]とされた。日本においても「日本看護科学学会が1989～1992年に『ヒューマン・ケアリング』に研究課題として取り組み、看護の研究者、教育者、実践者への『ケアリング』論の普及が始まった」（永島2013）[10]。

カテゴリ①で概念を教える際の重要な教員の要素として文化的要素・哲学的・宗教的があげられた。レイニンガーは「看護が世界的もしくは普遍的な専門職および専門的学問領域となるためには、世界のすべての文化ないしほとんどの文化ヒューマンケアで普遍的にみられる、すなわち共通に存在し同一視しうるものを看護のなかで究極的に発見するという理論的主張が極めて重要であると思われる」（レイニンガー1971：30）[3]と述べている。ケアリングには文化的要素は欠かせない。教員自身が自分の文化・哲学などを意識することが、相手の文化や価値観を理解することにもつながると考える。

カテゴリ②からの考察では、日本に「ケアリング」の考え方が入ってきてから25年間徐々に臨床の場から広がりつつある。しかし、看護基礎教育の場では普及しているとは言い難い。佐藤聖（ID18）（佐藤2016）[11]の15冊のテキストからの分析によると「ケアリングの教育内容は、ケアリングの概念理解やその過程の理解が想定されており、【ケアリングの構造】や【ケアされる人ケアする人の相互成長】など教育が充実している一方、教育方法などの【ケアリング教育の必要性】や看護実践において必要となる【看護における倫理】や【ケアする人の資質】の内容が少ない傾向にあった」（ID18）（佐藤2016）[11]。看護教育においてなぜ「ケアリング」が必要なのが理解できなければ、「ケアリングの概念」が理解できて方法が分かったとしてもそれを取り入れていくことは難しい。看護は実践の科学である。カリキュラムやプログラムを導入するには、科学としての側面が必要である。表面には見えにくいケアリングの

概念をケアリングの測定用具を用いるということも
 今後は必要となるのではないかと考える。

カテゴリー③の方法論からは、他者との相互作用
 を通して自己理解・他者理解を深め、その体験を積
 み重ねることでヒューマンケアリング関係形成力を
 育成する（笹本 2014）[12]ためにプロセスレコードや
 ロールプレイングによって「対話」を重視することが
 重要であると考え。OSCEでの模擬患者との関わり
 もケアリングにつながる。安酸は「看護職がケアリ
 ングの専門家として成長していくためには、ケアリ
 ングを学問として学ぶことと同時に実践を通して省察（リ
 フレクション）と判断を繰り返していくことが必要で
 ある」（ID16）（安酸 2016）[13]と述べている。そし
 て実習のあり方として経験型実習教育の重要性を提
 唱している。「経験型実習教育は、経験から学んでい
 くという学力を重視する臨床実習教育の方法である」
 （ID16）（安酸 2016）[13]。臨地における複雑な生活の
 営みを現象の中から経験し、意味付けするという「臨
 床の知」の修得に焦点を当てている。また学生が現
 象からの意味付けを深化させるプロセスには、教員
 が対話を通して関わっていく必要がある。

カテゴリー④の行動と認識については、文化的要
 素はもとより哲学的基盤が重要であることがわかる。
 看護学生と教員の「対話」から学生がケアリングを
 身に着けていくということは、教員の哲学基盤が不可
 欠であると言える。田畑らは、看護における哲学を次
 のように述べている。「人間を理解するには、学際的
 で豊かな知識の海を持ち、深く静かに思考する姿勢
 が求められます。そこで看護に必要と思われるあらゆる
 学問を学ぶとき、それらを統合する役割が哲学に求
 められることとなります」（田畑ら 2003：p154）[14]。

次に専門職としての看護とケアリングの関係を考
 えてみる。看護の本質が「ケアリング」にあること
 は、先行研究から明らかである。「看護におけるケ
 アリング概念は、看護の本質であり、そして看護の
 プロフェッショナルリゼーションに深く関連した概念
 なのである」（服部 2007）[15]。「看護職は、誰にで
 もちょっとした知識で実践できるような看護ではな
 く、ノンプロフェッションではできない看護を実践
 する職業であることを認められるために積極的にプ
 ロフェッショナルリゼーションを進める。…略…そこ
 にケアリング概念が深く関与してくることになる」
 （服部 2007）[15]。ワトソンが述べているように看

護学には独自の見方・視点が必要である。人間を細
 分化してアセスメントすることで、人間を統合体と
 してとらえることはできない。先にも述べたように
 人間はユニタリな存在であることを再認識したい。
 表1でも示したように看護の独自の見方は個性的で
 あり、形而上学的であり、間主観的であることを看
 護師自身が外に向かって表現できなければならない
 のではないか。「ここには大文字のTのつく唯一無
 二の真実（Truth）はなく、経験する人や知覚する
 人によって異なる複数の真実（truth）がある」（ワ
 トソン 1999：p147）[5]。またメイヤロフが述べて
 いるように、ケアするものはケアを必要としている
 人との補完関係にあり、ケアリングは生きることそ
 のものであることをしっかり自覚することが大切だ
 と考える。専門職としての看護師がケアリングをど
 うとらえるかについて服部は「ケアリングの価値が
 認められつつある今、ケアリングが他の医療職種と
 は異なるものとしてのプロフェッションとしての看
 護をいかに特徴づける概念となりうるのか、また教
 育できるものとして成立しうるものか、それを我々
 が具体的に理解できるには、さらなる検討が必要で
 ある」（服部 2007）[15]。以上のように専門職の看
 護師として「ケアリング」の概念をカリキュラム上
 に反映していくことが重要であると考えられる。単
 なる国家資格をとれたからよしとするのではなく、
 「職業人としてどう生きていくかを単なる自己の
 キャリア形成にとどまらず、看護師として患者をケ
 アすることの意味、看護師として生きる意味に気づ
 く場をもつことは、看護師としてのゆるぎない基軸
 を持つことにつながる」（西田 2015）[7]。

7. 結 論

以上のことからケアリングを看護教育のプログ
 ラムの中に取り入れていくことは、看護学生がプロ
 フェッショナルになるという自覚をもつために必要
 不可欠なことだと考える。看護基礎教育にケアリ
 ングを取り入れていくことは意義があるとの結論を得
 た。方法論としては、ケアを必要とする人の生き方
 を大切に思うことを意識した、トランスパーソナル
 なプロセスを意識した多くの事例を学生に紹介して
 いくこと。さらに「対話」を通してケアリングにつ
 いてともに考えていけるように検討していく必要が
 ある。

【おわりに】

看護基礎教育の場ではケアリング概念とプロフェッショナルになるために必要な概念が定着しているとは言い難い。現在の看護基礎教育のケアリングは方法論が主である。文献も方法論については増えてきているが、本質論的な概念を明確にしカリキュラムやプログラムとして導入の必要性を述べている文献は少ない。また看護師がケアを必要とする人の人生に深くかかわっていくことを思えば看護師自身の人生観・価値観・哲学的な見方も重要な要素になる。言い換えればそのことを教育に携わるものが自らの生き方で看護学生に示していく必要がある。

ケアリングは看護の本質ではあることは間違いないが看護だけの考えではない。看護領域のみに固執せず今後は多様な分野も視野に入れる必要がある。

【引用文献】

- [1] 泉澤真紀 「ケアリングは看護の何なのか—テクノロジー時代におけるケアの倫理と看護—」, 北海道文教大学研究紀要, 33, pp.1-10, (2009)
- [2] 川島みどり 『看護の時代—看護が変わる医療が変わる』, 日本看護協会出版, pp.205, (2013)
- [3] M. M. Leininger, *Culture Care Diversity and Universality: A Theory of Nursing*, National League for Nursing (1991), (稲岡文昭・石井邦子・サチコクラウス, 筒井真優美・渡辺久美子訳『レイニンガー看護論—文化ケアの多様性と普遍性』, 医学書院, pp.10-30, (1995))
- [4] 西田絵美 「看護師育成としての〈ケアリング〉教育のあるべき姿」, 佛教大学教育学部学会紀要, 15, pp.115-125, (2016)
- [5] J. Watson, *Nursing: Human science and Human care: A theory of nursing*, Jones and Barlett Publishers. (1999), (稲岡文昭・稲岡光子・戸村道子訳『ワトソン看護論—ヒューマンケアリングの科学』, 医学書院, (2014))
- [6] M. Mayeroff, *On caring*, Haep&Row, (1971), (田村真・向野宣之訳『ケアの本質—生きることの意味—』ゆるみ出版, (1987))
- [7] 西田絵美 「メイヤロフのケアリング論の構造と本質」, 佛教大学大学院紀要, 教育学研究篇, 43, pp.35-51, (2015)
- [8] 布佐真理子・羽山由美子・操華子 「看護教育におけるケアリング概念についての検討—メイヤロフの『ケアの本質』をてがかりに—」, 聖路加看護大学紀要, 23, pp.15-21, (1997)
- [9] 中柳美恵子 「ケアリング概念の中範囲理論開発への

検討課題—看護学におけるケアリングの概念分析を通して—」, 看護学統合研究, 1(2), pp.26-44, (2000)

- [10] 永島すえみ 「わが国の看護における『ケアリング』論の導入と研究の動向」, 佛教大学教育学部学会紀要, 12, pp.99-111, (2013)
- [11] 佐藤聖一 「看護学テキストにおける『ケアリング』の教育内容の分析」, 看護教育研究学会誌, 8(1), pp.33-45, (2016)
- [12] 笹本美佐・磯野洋一・梶川拓馬 「ヒューマンケアリングにおける関係形成力を育む『体験の積み重ね』教育」, 看護教育, 55(6), pp.557-562, (2014)
- [13] 安酸史子 「ケアリングを取り入れた看護教育」, 日本保健医療行動科学学会雑誌, 31(2), pp.10-13, (2016)
- [14] 田畑邦治・田中美恵子 『哲学—看護と人間に向かう哲学』, HIROKAWA, pp.152-157, (2003)
- [15] 服部俊子 「ケアリングとプロフェッションとしての看護—看護倫理の構想に求められること—」, 熊本大学学術先端倫理研究, 2, pp.66-78, (2007)

【参考文献】

- 1. M. E. Rogers, *An Introduction to the Theoretical Basis of Nursing*, F. A. Davis. Co, (1970), (樋口康子・中西睦子訳『ロジャーズ看護論』, 医学書院, (1979))
- 2. 佐藤幸子・井上京子・新野美紀・鎌田美千子・小林美名子・藤澤洋子 「看護におけるケアリング概念の検討」, 山形保健医療研究, 7, pp.41-48, (2004)
- 3. 安酸史子 「看護教育における教育方法論としてのケアリングの導入に向けて」, 福岡県立大学看護学部紀要, 1, pp.1-2, (2003)
- 4. 谷岡哲也・R. C. Locsin・多田敏子・大林美津子・大阪京子 「看護実践におけるケアリングとしての技術的能力」, 香川大学看護学雑誌, 12(1), pp.1-6, (2008)
- 5. J. ワトソン 「ヒューマン・ケアリング理論：理論の核とカリタス・プロセス」, 日本赤十字広島看護大学紀要, 10, pp.77-80, (2010)
- 6. 堀井奏明 「看護倫理とケアリング—看護倫理の基底をめぐる一考察」, 天使大学紀要, 10, pp.57-65, (2010)
- 7. 佐藤聖一 「看護におけるケアリングとは何か」, 新潟青陵学会誌, 3(1), pp.11-20, (2010)
- 8. 筒井真優美 「看護学におけるケアリングの現在—概説と展望—」, 看護研究, 44(2), pp.115-128, (2011)
- 9. 宮脇美保子 「ケアリングの測定用具」, 看護研究, 44(2), pp.159-171, (2011)
- 10. 西村ユミ・太田喜久子・数間恵子・川口孝泰・古在豊樹・小松浩子・正木治恵 「これからの社会におけるケアサイエンスの構築をめざして—看護学からの提案—」, 学術の動向, SCT Forum 22(5), pp.58-71, (2017)